

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府・京都市 】

学校名【 京都市立春日丘中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	京都市立春日丘中学校 第1学年 4クラス 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間・道徳) ② 行事名 (人権学習) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・触れることの少ない福祉器具について学習し、自ら体験することでその特性を理解する。 ・車いすバスケット体験や、選手の方々との交流を通して、障害者スポーツに対する理解を深め、人権意識を高めることで自分の生き方を考える。 ・パラスポをきっかけに、オリンピックおよびパラリンピックへの理解を深める。
5 取組内容	1 事前学習 ○幸せな生き方について考える。 ○人権とは何かについて考える。 ○なぜ差別がおこるのかについて考える。 ○「あってもよい違い、あってはならない違い」について考える。 ○身の回りにある、障がい者に係る様々なマークについて考え、共生社会を目指すことの必要性を考える。 ○パラリンピック競技について知る 2 講演と車椅子バスケットボール競技体験 講師：坂野 晴男氏 (シドニー・北京パラリンピック 車椅子バスケットボールチームコーチ)

山本 英嗣氏、八橋 隆二氏 (KYOTO UPS 選手)

- 選手のプレイを見た後、車椅子操作やルール説明を聞く
- クラス対抗車椅子リレー
 - 競技用車椅子で全員が前進・後進の体験
- クラス対抗車椅子バスケ試合
 - 山本選手・八橋選手含む代表生徒5人ずつが対戦
- 講演会で選手の半生など聞く
 - ・事故により障がいを負った選手の苦勞、引きこもり、人との接触を避けていたが競技との出会いで考え方を変えた経緯
 - 前向きな気持ちで生きることの大切さ
 - ・車椅子利用者の生活上の困難と、海外との支援の違い



3 事後学習

- 前時までのふりかえりと、校内や街のバリアフリーを考える

<p>6 主な成果</p>	<p>事後アンケートから、生徒の意識の変容がうかがえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックにもいろいろな競技があることを知り、関心が高まる。 ・障がいのある人（車イス）の人たちも、自分たちと同じようにスポーツを楽しみ、充実した生活を送っていることを知る。 <p>【生徒感想文から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は楽しい時間をどうもありがとうございました！！始めはりゅちえるの元気さに少しおどろきましたが山本さんのお話を聞いて理解しました。偏見ではありますが、始め車イスの人などの障害者の方々は、少し暗めの印象でした。けれど車イスの乗り方をお教えてもらっている時やリレーの時、そしてバスケのときなど、全体を通して、私たちと変わらないんだな、と感じました。 ・今日は2時間も時間を取っていただきありがとうございました。初めは車椅子バスケが簡単だと思ってたけど実際やってみると前に進むことすら難しくて苦戦していました。山本さんやりゅちえるさんはとてもすごいんだなと改めて思いました。私も二人みたいに何かに一生懸命取り組んでいきたいなと思いました。山本さんの話を聞いてとても苦労をしてここまで来たんだということがとても分かったので私も山本さんみたいに頑張っていきたいと思いました。本当に今日はありがとうございました。 ・今日は車いすリレー車いすバスケを通して車いすの難しさ、不便さ、それと同時に山本さんやりゅちえるの努力がすごく伝わってきました。僕も同じ思いをして車いす生活になったと考えたら、山本さんのお話であった、家の外に出ることができない、周りで見られることが恥ずかしいと思ってしまうと思います。でもお父さんやお母さんが毎日お見舞いに来てくれたことや病院の友人、バスケに誘ってくれたおじちゃん、仲間、色んな人に支えられて、山本さんやりゅちえるは今笑って学校に車いすリレー、バスケ、お話をしに来てくれることに感動しました。仲間の支えと自分の力、この2つは障害の有無に関係なしに、必要だなと思いました。今日は本当にありがとうございました。 ・自分がいつも当たり前だと思ってた事が、本当は、当たり前じゃなく、とてもすごい事で感謝しないといけないことに気付かされました。「歩けないなら車いすでする事をする。」っていうのも感動したし、歩けなくてもたくさんできる事が出来ることを知ってすごくいい機会になりました。また自分が普通では体験できないことを体験することができこの授業が自分にとってもみんなにとってもいい機会になりました。本当に今日は私たちのために、たくさんの方「人権」またさまざまな事について教えていただいて本当にありがとうございました。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>生徒の理解を促す為、視聴覚教材利用など</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>小中連携で情報交換、小学校での指導内容を踏まえ人権教育の計画</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>同様の内容を計画するか未定であるが、今後も続けてオリンピック・パラリンピックへの知識理解を深めるよう、促していきたい。</p>